

設立

福島県では、昭和41年の東北自動車道建設工事を契機として開発に伴う埋蔵文化財の調査が大規模化しました。

その後、母畑地区(郡山市・須賀川市を始めとする2市1町2村の4,000haを超える範囲)で国営総合農地開発事業が促進されることとなり、埋蔵文化財保護行政の体制強化が求められました。

これに対応するため、福島県教育委員会は昭和52年4月に、財団法人福島県文化センター内の事業第二部に埋蔵文化財調査を担う遺跡調査課を設置し、県教育委員会からの委託により埋蔵文化財調査を開始しました。

沿革

1977(昭和52年) ●財団法人福島県文化センター内に、遺跡調査課 設立

1985(昭和60年) ●岡部分室 開設

1988(昭和63年) ●杉妻分室 開設

1993(平成5年) ●遠瀬戸分室 開設

1994(平成6年) ●市町村埋蔵文化財調査技術協力事業を福島県教育委員会から受託する。

1996(平成8年) ●杉妻分室から山下町分室へ移動。

2001(平成13年) ●財団法人福島県文化センターの改組に伴い、事業第二部遺跡調査課を財団法人福島県文化振興事業団遺跡調査部遺跡調査課と改称。

山下町分室と遠瀬戸分室を、それぞれ山下町調査室・遠瀬戸調査室に改称。岡部分室から渡利分室へ移動。

2005(平成17年) ●遠瀬戸調査室を山下町調査室へ統合。

2006(平成18年) ●遺跡調査課から遺跡調査グループへ名称変更。山下町調査室を山下分庁舎に名称変更。

2009(平成21年) ●遺跡調査グループから遺跡調査課へ名称変更。

2011(平成23年) ●東日本大震災

2012(平成24年) ●財団法人福島県文化振興基金との合併に伴い、財団法人福島県文化振興財団と改称。

2013(平成25年) ●遺跡調査課を管理課・調査課の二課体制に変更。

2014(平成26年) ●財団法人福島県文化振興財団から公益財団法人福島県文化振興財団へ移行。

2015(平成27年) ●管理課・調査課を調査課のみの一課体制に変更。

2019(平成31年) ●渡利分室が閉室され、文化財センター整備事業の機能が福島県文化財センター白河館に移転。

2024(令和6年) ●遺跡調査部を福島市山下町から旭町へ移転。



●交通アクセス／

JR福島駅(東口)バス乗り場2より

「藤田」、「掛田駅前(伊達・上ヶ戸経由)」、「信夫山循環線4号線先回り」、「北福島医療センター」乗車、『年金事務所入口』下車。徒歩4分

JR福島駅(東口)バス乗り場3より

「梁川」、「保原」、「月の輪台団地」、「掛田駅前(宮下町・大波経由)」乗車、『年金事務所入口』下車。徒歩4分

【表紙写真】 弥生時代の土器埋設遺構(南相馬市根田遺跡)

公益財団法人福島県文化振興財団

遺跡調査部

〒960-8113 福島県福島市旭町7-7

TEL 024-534-2733 FAX 024-525-7719

URL <https://www.fcp.or.jp/iseki/>



HPでは
発掘調査の情報や、
文化財に関するコラムを
掲載しています。



遺跡調査部公式サイトはこちら▶

未来につなぐ、文化の力

遺跡調査部

The Culture Promotion Organization of Fukushima Prefecture

Remains Research Department

令和7年度版



公益財団法人
福島県文化振興財団

分布・試掘・確認調査

分布調査は、開発予定地を歩いて遺跡を見つけ、試掘・確認調査は、遺跡に小規模な調査をして遺跡の内容や範囲を確認します。これらの調査成果は分布調査報告書として刊行されます。



分布調査



分布調査報告書



試掘・確認調査

発掘調査

試掘・確認調査で把握された遺跡の範囲のうち、現状保存ができないところについては、発掘調査による記録保存を実施します。このため、発掘調査では、写真や図面で詳細な記録を行います。



発掘調査



遺構測量



木質遺物取り上げ

発掘調査報告書の作成

調査で出土した遺物は福島市旭町の遺跡調査部に運ばれ、洗浄・注記・接合の工程を経て実測図や写真図版を作成します。

発掘調査で得られた記録や所見をまとめ、その遺跡の年代や性格を明らかにし、調査報告書を刊行します。



遺物の接合・復元



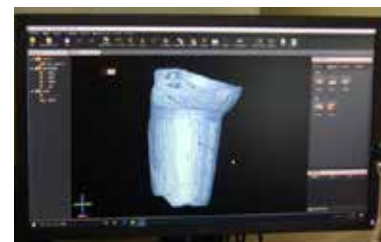
採拓



パソコンによる図面編集

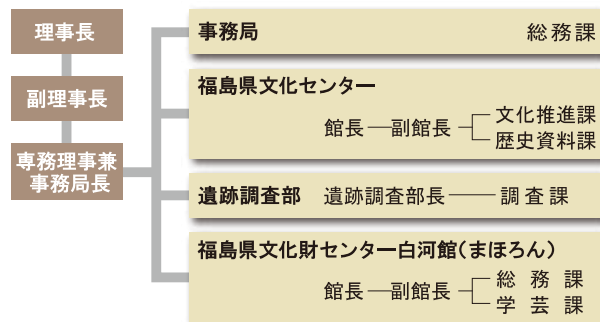


脆弱な遺物のクリーニング



3D測定機による3Dデータの作成

福島県文化振興財団の組織



業務内容

遺跡調査部は福島県教育委員会の委託を受けて、福島県内の複数市町村にまたがる広域事業や国・県の事業に伴う発掘調査、埋蔵文化財の有無を確認する業務を実施しています。

開発などでどうしても現状保存ができないときは、発掘調査を行い、記録により文化財を後世に残し、活用に残っています。

啓発普及活動

発掘調査の成果を地域に還元し、啓発普及をはかるために、県教育委員会が主催する現地での説明会などに協力しています。

また、当財団の自主事業として、調査成果の講演会などを実施しています。



南相馬市根田遺跡現地説明会(R6.10月)



土器ドキ体験会(R6.7・8月)



● 報告書刊行後の記録や出土品は福島県文化財センター白河館(まほろん)に收藏され、研究・展示・普及活動などに活用されます。

2024年度の発掘調査情報



1 南相馬市 | 根田遺跡

農山村地域復興基盤総合整備事業

- 所在地／南相馬市小高区小屋木字根田
- 調査期間／令和6年4月～12月
- 調査面積／6,600㎡
- 時代／縄文時代、弥生時代、古墳時代、平安時代
- 概要／小高川南岸の沖積地上に立地しています。
3つの遺構確認面より、平安時代の土坑・溝跡、古墳時代の流路跡、弥生時代の集落跡や小児用のお墓と考えられる土器埋設遺構、縄文時代の流路跡などがみつかります。遺物は、古墳時代の土師器のほか、弥生時代前期～中期の土器、石庖丁や磨製石斧が見つかりました。



2 泉崎村 | 踏瀬熊ノ森遺跡

国道4号事故対策事業

- 所在地／西白河郡泉崎村大字踏瀬字熊ノ森
- 調査期間／令和6年4月～6月 ●調査面積／600㎡
- 時代／縄文時代、古墳時代
- 概要／隈戸川南の沖積地上の微高地に立地しています。遺構は、縄文時代前期頃の狩猟用の落とし穴とみられる土坑と、古墳時代中期の住居跡が確認されています。遺物は、縄文土器と土師器が出土しています。



土師器杯



落とし穴



古墳時代中期の住居跡



調査区遠景

3 会津若松市 | 上吉田C遺跡

会津縦貫北道路

- 所在地／会津若松市高野町大字上高野字村西
- 調査期間／令和6年10月～11月 ●調査面積／900㎡
- 時代／中世、近世
- 概要／湊川と旧湯川に挟まれた沖積地上に立地しています。遺構は、土坑や溝跡が確認されています。遺物は、溝跡から近世頃と思われる陶器などが出土しています。



遺物出土状況



調査風景

2025年度の発掘調査予定の場所

ア 会津若松周辺



イ 矢吹・玉川周辺



- | | |
|---------------|---------------|
| 1 会津若松市 鶴沼A遺跡 | 会津縦貫北道路事業 |
| 2 会津若松市 鶴沼B遺跡 | 会津縦貫北道路事業 |
| 3 鏡石町 諏訪町遺跡 | 阿武隈川上流大規模災害関連 |
| 4 矢吹町 東川原遺跡 | 阿武隈川上流大規模災害関連 |
| 5 矢吹町 後原遺跡 | 阿武隈川上流大規模災害関連 |